

第1回 学校外での子供の多様な学びに関する有識者会議 議事要旨

開催日時：令和5年7月26日（水曜日） 9時30分から11時30分

開催場所：都庁第二本庁舎31階特別会議室26

出席者：秋田喜代美委員、今村久美委員、加瀬進委員、川崎由起子委員、
中島さち子委員、宮尾益知委員（以上6名）

■座長の選任

- 秋田喜代美委員が座長に選任された。

■議題

- 本会議設置の趣旨について説明

(1) 学齢期の子供を取り巻く状況について

- 東京都の不登校児童・生徒の状況や、公立学校の不登校対策等、第9回こども未来会議の概要について説明。

<委員からの主な意見>

- ・不登校の子供が通う民間施設は、彼らにとって大切な居場所であるということ的前提に、どのように支えていけるのかを考えるべき。
- ・子供や家庭をどう支援していくのか、深く踏み込んで考えるときに来ていると感じる。
- ・子供の多様な凸凹な個性や違いを、思わず悪いと思ってしまう意識や文化を変えていくことが必要。先生も保護者も良かれと思う言動が、結果として悪循環を起こすこともあり、多様な傾向等を知る機会も必要。
- ・昔に比べて、子供は社会性をうまく身に付けることができていないと感じる。社会に出たら、オンラインだけというわけにはいかず、フリースクールでも社会に出た後に必要な力の観点も重要。
- ・生きづらさや困難を抱えている子供を含めた、全ての子供をどう支援していくか、向かうべき方向について、共有しながら議論することが大事。

(2) 学校外での多様な学びの場の創出について

- 学校外での多様な学びの場の創出に向けた、今後の検討の方向性について説明。

<委員からの主な意見>

- ・心を休める段階には居場所が必要。そして、伴走する形で、その子供に応じた個性を伸ばせる学びに再接続をしていく。この2段階を前提にしたい。
- ・居場所はとても大事だが、人だけでなく、好きなものやわくわく、作る楽しさの喜びが疲れた心を癒すこともあるのでは。学びと居場所の観点を分けることは大事だが、完全に切り分けられるものではないという観点も大切。
- ・子供にどんな力を身につけて欲しいのかという視点と、それをどういう風に応援していくのかということが大事。
- ・将来社会に出るための知識や、人とつながって生きていける資質を学び、育てていく、そのサポートをしていくことが必要。
- ・学び方・生き方の多様性を準備することが重要。その一つがフリースクールでは。
- ・保護者の支援も重要。大人も頼れる場所がもう少しあってもいい。
- ・すでに民間が担っている機能も社会的に認め、応援しながら、新たな形を作っていけるとよい。
- ・個々の民間施設だけで必要な機能を全て備えることは、難しい場合もある。
- ・学校は社会性も育むことができる場所。子供の状況に応じて学校に対する前向きな気持ちを、自発的に持てるようにしていくことも大事。
- ・フリースクールを子供が利用する場合でも、行政・学校がそれをしっかり把握し、事業者とコミュニケーションをとりながら、子供と一緒に育む視点を持つべき。